

令和元年度 第2回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の概要

○日 時 令和元年10月29日（火）午前10時00分～11時35分

○場 所 能代市役所 新庁舎3階 会議室9・10

○案 件

- ・数値目標・重要業績評価指標（KPI）の達成状況等について

【主な意見と対応】

意 見 等	対 応
平成29年度中に運転した大型太陽光発電所の場所は。	旧山本町との境、逆川のゴルフ練習場があった場所である。
「市の施策に関する雇用創出数」について、雇用87人が目標値となっているが、市の施策以外のデータは入っていないのでは。指標の見直しも必要ではないか。	基本目標に対する数値目標については、検証する必要があると思う。今後どのような指標が第2期の総合戦略の中では妥当なのか、検討したい。
「子どもを生み、育てやすいと感じる市民の割合」については、子育て世代ではない方には関心のない施策であるため、年齢別などいろいろと分析をしないと、分からない部分もあると思う。	KPIの設定は市の最上位計画である総合計画と擦り合わせて、策定している面もあるが、目標値の妥当性や分析も含め、今後、検討したい。

- ・人口動態等に関する分析について
- ・各種アンケート調査の集計結果について

【主な意見と対応】

意 見 等	対 応
アンケートの分析結果を市の施策に反映していく項目はあるのか。	今後、アンケートの分析をさらに深める。それを市の施策にどう反映していけばいいのか、庁内でも検討し、委員の皆さんからもご意見をいただきたいと考えている。
「結婚に向けて参加してみたいと思うイベントや講座」についての設問があり、一番多い回答が「参加してみたいものはない」とのことであった。こういった方に、何に参加したいのか、といったこと	アンケートの再調査は現時点では考えていない。今後は、クロス集計のほかに、アンケートの自由記載からの洗い出しを行いたいと考えている。

をさらに聞く予定はあるか。	
以前は、この地域の女子の児童生徒数は、秋田県内でも多い地域だった。現在の割合は分かるか。	資料を持ち合わせていないが、参考までに、市内の高校3年生を対象にしたアンケート調査では、男性が302人、女性が299人とほぼ半々であった。
最初の戦略時に人口予測を立てたと思うが、現在の状況は。また、地元就職を希望する高校生の保護者は地元に残ることに対して積極的ではないと聞いたことがある。就職に関する保護者の関わり方について、何か情報があれば教えてほしい。	出生率等の最新数値がでていないため実数は推計できないが、婚姻数の減少等から推測すると、想定よりも減少傾向にあると思われる。 高校生の約6割が保護者の意見を重視しているが、県外に進学した場合、企業情報が分からないため、意見の出しようがないこともあると思う。保護者の関わり方については、もう少し議論を深めていく必要があるのではないかと思う。

・各団体の取組状況について（説明：能代公共職業安定所 茂木委員）

【取組状況の主な内容】

過去5年間の男女別県内就職状況では、男子の県内就職率が右肩上がりだが、女子は今春卒のところで、率が若干低下している。

過去5年の進学希望割合で、進学率は約6割で推移している。いずれの年も実数、率ともに女子の進学希望が男子を上回っている。まずは、地元に残り活躍したいという高校生を残すこと。その中でも女子の働ける場の確保を考えなければいけない。進学する女性に戻ってきてもらわないと、出産可能な年齢の女子が戻ってこないで、人口減少に歯止めがかかりにくいことになる。

能代の場合、男子の地元就職が上がってきた要因として、高校生に対するインターンシップ、能代デュアルシステムが機能してきた効果ではないかと見ている。ただし、進学した大学生等は、自分で探さなければいけない。事務局のようなものがあれば、地元でのインターンシップがしやすくなるのではないかと思う。

今はどこかの組織1つだけで問題を解決というのはなかなか難しい。山本地域振

興局や能代市役所、我々でタイアップしてできる部分を探し、1つずつやっていくことが必要である。

東日本大震災の後、被災した時に高校1年生だった方の岩手県内の就職率が5割代から6割代に伸びた。被災した地元をもう1回盛り立てたいということで、高校生が、地元就職をしたという状況が起きた。小さい時から、地元に対する愛着が育っていれば、何か危機的状況があったときに、皆で力を合わせてという気持ちを今の若い方が十二分にもっているのではないのかなと感じた。

宮城県については、もともと地元就職の割合が高かったが、被災直後、7割代から8割代に上昇したというデータがある。先程の各種アンケートの結果等はなかなか厳しい状況で、閉塞感も漂う所ではあるが、「打ち出の小づち」のようなものはなかなかないだろうと思う。皆で知恵を出し合い、継続して、どのように効果のあるものを、限られた人員、予算でやっていくか、ということにかかってくると感じている。

65歳以上で働いている方の割合は、最新だと9.3%で、毎年1%強の割合で高まっている。おそらく令和2年度には10%を超えるのではないか。高齢者、専業主婦の方に、いかにして労働市場に参入していただくか、市役所等々とタイアップしてどういうふうにしていくかという所を進めていきたい。

【主な意見と対応】

意見等	対応
今春卒業し能代山本地区の企業に就職した女子は、昨年に比べ10人も減っている。要因は分かるか。	以前、女子が比較的就職した企業で、求人提出がなかったこと、店舗の統廃合等が影響したと思われる。